

ニーズ調査結果

【1 調査目的】

令和2年度を始期とする「高島町第2期子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、計画検討に向けた基礎資料として、子ども・子育てに関する実態や保護者の子ども・子育て支援に関する意向を把握することを目的として実施しました。

【2 調査内容】以下のとおり（対象）

項目	就学前	小学生
1. 子どもと家族について	○	○
2. 保護者の就労状況について	○	○
3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用について	○	
4. 地域の子育て支援事業の利用状況について	○	
5. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について	○	
6. 病気の際の対応について	○	
7. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	○	
8. 放課後の過ごし方について	○	○
9. 育児休業や時間短縮勤務制度など職場の両立支援制度について	○	
10. 生活の状況や進学、子育て支援への満足度について（新規項目）	○	○

【3 調査対象・調査方法】（ ）内は5年前の調査値

	就学前児童保護者	小学生保護者
調査対象	町内に居住する就学前児童が含まれる世帯の保護者	町内に居住する小学1～3年生が含まれる世帯の保護者
対象者数	749人（955人）	546人（579人）
調査方法	施設配布・回収／郵送・回収	施設配布・回収
調査時期	令和元年8月27日～9月4日（平成25年12月13日～12月25日）	
調査地域	高島町内全域	

【4 調査の回収結果】（ ）内は5年前の調査値

	就学前児童保護者	小学生保護者
配布数	749通（955通）	546通（579通）
有効回収数	579通（585通）	450通（484通）
有効回収率	77.3%（61.3%）	82.4%（83.6%）
回答者	母親88.6%（91.5%）	母親87.1%（85.1%）

【5 調査結果の概要】

はじめに、第1期計画実施の総体的な評価にあたる調査項目を検証します。

○高島町における子育て環境や支援への満足度について

【就学前】【小学生】

今回の調査で、「満足している」「やや満足している」を合わせると就学前児童で43.5%、小学生で36.0%と5年前よりそれぞれ13.1ポイント、8.8ポイント高くなっています。

一方、「不満がある」「やや不満がある」を合わせると就学前児童で11.8%、小学生で15.7%と5年前よりそれぞれ10.2ポイント、4.7ポイントと低くなっています。

このように、総じて5年前調査よりも、子育て環境や支援策に対する満足度が向上しており、一定の評価ができるものと考えます。

(単位：%)

	就学前児童		小学生	
	今回調査	5年前調査	今回調査	5年前調査
満足している	13.3	7.5	11.6	7.6
やや満足している	30.2	22.9	24.4	19.6
普通	40.2	45.8	46.2	49.2
やや不満がある	9.0	16.4	13.3	15.9
不満がある	2.8	5.6	2.4	4.5
無回答	4.5	1.8	2.0	3.2

次に、主な調査項目について、前回調査との比較も含め検証します。

(1) 保護者の就労状況について

【就学前】【小学生】

母親の「就労している」の割合が89.8%と5年前より、就学前児童で5.7ポイント、小学生で7.0ポイント高くなっており、共働き世帯の傾向が年々増えています。父親の就労についても同様の傾向が見られます。

(2) 保護者の帰宅時間と子どもの迎え時間について

【就学前】【小学生】

母親の帰宅時間で「19時以降」が就学前で15.6%(80人)、小学生で20.2%(80人)で、父親の場合は、就学前で47.8%(233人)、小学生で55.0%(192人)と相当数あります。

原則、子どもの施設利用終了時間は18時15分、延長保育の最大で19時15分であることから、子どものお迎えに苦慮されている世帯が多いように感じます。

また、「利用時間を19時台まで伸ばしてほしい」が5.7%（23人）でした。

（3）母親の休業明けの就労希望について

【就学前】【小学生】

現在フルタイムで就労していない方でフルタイムへ転換を希望されている方は就学前で41.7%、小学生で38.3%、パートやアルバイト等の就労を希望する方を含めると、それぞれ78.7%、83.2%と就労希望が高い結果でした。

（4）保育園、幼稚園等の利用について

【就学前】

回答者の91.0%の子どもが利用しており、5年前より14ポイント高くなりました。人数についても450人（5年前）から527人（今回）と増えています。これは、預け始めの年齢が年々低くなってきているためと考えられ、子どもの数は減少しましたが、それ以上に利用人数が増加した結果といえます。

（5）土曜日、日・祝日の保育利用希望について

【就学前】

土曜日については、「月1～2回利用したい」が36.3%（210人）、「毎週利用したい」が15.9%（105人）と割合・人数ともに相当数あります。

日・祝日については、「月1～2回利用したい」が15.9%（92人）、「毎週利用したい」が1.9%（11人）と土曜日より34ポイント低い結果でした。

月に1～2回利用したい人の理由に「月に数回仕事が入るから」が82.9%で5年前より10.7ポイント増えています。

（6）子どもの病気等の際の対応について

【就学前】

「子どもが病気等で父又は母が仕事を休んだことがある」が76.1%、そのうち、「病児・病後児保育施設を利用したい」が47.1%（163人）で5年前よりも10.1ポイント高くなっています。特に0～2歳が高く55.4%でした。

またその望ましい事業形態としては、小児科併設型が88.3%で最も高く、次いで幼児施設併設型が52.1%でした。

（7）不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の事業について

【就学前】

「利用していない」が90.8%で、その理由として「必要でない」が81.2%と最も高く、次いで「事業の利用方法（手続き）がわからない」が30.8%（162人）でした。

また、当事業を「利用したい人」は30.4%（176人）で、当事業の利用目

的は「私用」が 60.8% (107 人) と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事」58.5% (103 人) でした。利用希望日数は「1～5 日」が最も多く、実際に「子どもを泊まりがけでみてもらわなければならなかったことがあった」が 17.4% (101 人) でした。

(8) 放課後の過ごし方について

【就学前】【小学生】

5 歳以上の就学前児童がいる家庭で、子どもが小学校低学年になったときに放課後過ごさせたい場所については、以下のとおり。

順位	今 回	5 年前
1 位	放課後児童クラブ 58.0%	自宅 50.7%
2 位	自宅 39.8%	習い事 18.7%
3 位	習い事 21.6%	放課後児童クラブ 17.3%

小学校低学年の児童がいる家庭で、子どもが小学校低学年時に放課後過ごさせている場所及び高学年になった時の過ごさせたい場所については、以下のとおり。

順位	小学校低学年	小学校高学年
1 位	自宅 60.4%	自宅 69.3%
2 位	放課後児童クラブ 44.2%	塾や習い事 42.4%
3 位	塾や習い事 30.9%	放課後児童クラブ 19.6%

(9) 親の育児休業の取得について

【就学前】

母親の育児休業については、「取得した」が 61.7% (357 人) で 5 年前より 14.7 ポイント高く、「取得していない」が 14.9% (86 人) で 5 年前より 2.7 ポイント低い結果でした。取得していない理由は以下のとおり。

順位	取得していない理由
1 位	職場に取りにくい雰囲気があった 26.7% (23 人)
2 位	経済面 20.9% (18 人)
3 位	職場に制度がない 19.8% (17 人)
4 位	仕事が忙しかった 17.4% (15 人)

父親の育児休業については、「取得した」が 0.7%（4 人）で、取得していない理由は以下のとおり。

順位	取得していない理由
1 位	配偶者が取得した 42.4%
2 位	仕事が忙しかった 32.4%
3 位	経済面 33.2%
4 位	職場に取得しにくい雰囲気があった 31.8%

(10) 育児休業後の職場復帰のタイミングについて

【就学前】

母親が「育児休業を取得した」と回答した 303 人中、職場復帰のタイミングについて「年度初めに合わせた」が 33.7%に対し、「それ以外」が 64.7%となり「それ以外」の方が上回りました。（5年前も同様）

実際に取得した期間は「6ヶ月～1年」が 42.6%で最も高い一方、希望する取得期間は「1年～1年6ヶ月」が 50.2%と最も高い結果でした。

希望より早く復帰した理由については、以下のとおり。

順位	希望より早く復帰した理由
1 位	経済面 39.6%
2 位	人事異動や業務の節目の時期に合わせるため 28.9%
3 位	希望する保育所に入るため 21.9%

(11) 育児休業後職場での短時間勤務制度の利用について

【就学前】

「利用した」が 30.4%、「したかったが利用しなかった」が 37.6%、「必要なかった」が 31.0%でした。

利用しなかった理由については、以下のとおり。

順位	職場での短時間勤務制度を利用しなかった理由
1 位	職場に取りにくい雰囲気があった 58.8%
2 位	仕事が忙しかった 51.8%
3 位	利用すると給与が減らされる 37.7%
4 位	制度がなかった 27.2%

(12) 家庭の経済状況や困窮状況について

【就学前】【小学生】

家庭の経済状況について「やや苦しい」「苦しい」と回答した人を合わせると、就学前児童 41.2%、小学生 37.3%でした。

「電気、ガス、水道、電話料金の未払い経験」や、「保育料や授業料、給食費の未払い経験」、「食料または衣服が買えない経験」があると回答した家

庭は小学生の家庭が就学前より全体をとおして多い状況です。また、「塾や習い事に通わせられなかった」は小学生家庭で32.2%となっています。

親が希望する子どもの最終学歴は、高校より上の学校「高等専門学校」「専門学校」「短期大学」「大学」「大学院」合わせて就学前71.0%、小学生71.8%でありました。「子どもの進学について心配なこと」は「学費等の確保」が就学前71.0%、小学生70.2%（複数回答）であり、経済面の心配ごとが多くなっています。

経済的な困窮経験がある割合

（「よくある」「ときどきある」「あまりない」回答分）

設問	就学前	小学生
電気料金滞納した	8.5	12.0
ガス料金滞納した	7.1	9.8
水道料金を滞納した	8.3	10.5
電話料金を滞納した	9.3	11.8
保育料や授業料を滞納した	10.7	13.5
給食費を滞納した	4.9	9.4
子どもに十分なお飯を食べさせなかった	5.5	9.5
子どもの成長や季節に合わせて必要な衣類 を買い与えられなかった	12.4	16.9
子どもを塾や習い事に通わせられなかった	23.3	32.2